

ネパールにおけるエコツーリズムについて ポカラ・ツシタトラベルを例に

谷地 隆

1. はじめに

2002年に国連が決めた国際エコツーリズム年から8年が経過し、国内外でエコツアーが盛んに行われてきた。その中でも、最も人気の高いエコツアーはヒマラヤにおけるトレッキングであろう。ここでは、単にヒマラヤトレッキングなどの

観光だけではなく、食育をともなったエコファーム (Ecofarm) について、ネパール (Nepal) ・ポカラ (Pokhara) を中心に活動しているツシタトラベル (Tushita Travel) におけるツーリズムを例に見て行くことにする。ツシタトラベルは、次世代に緑の世界を継承させるをモットーに2001年に設立された。

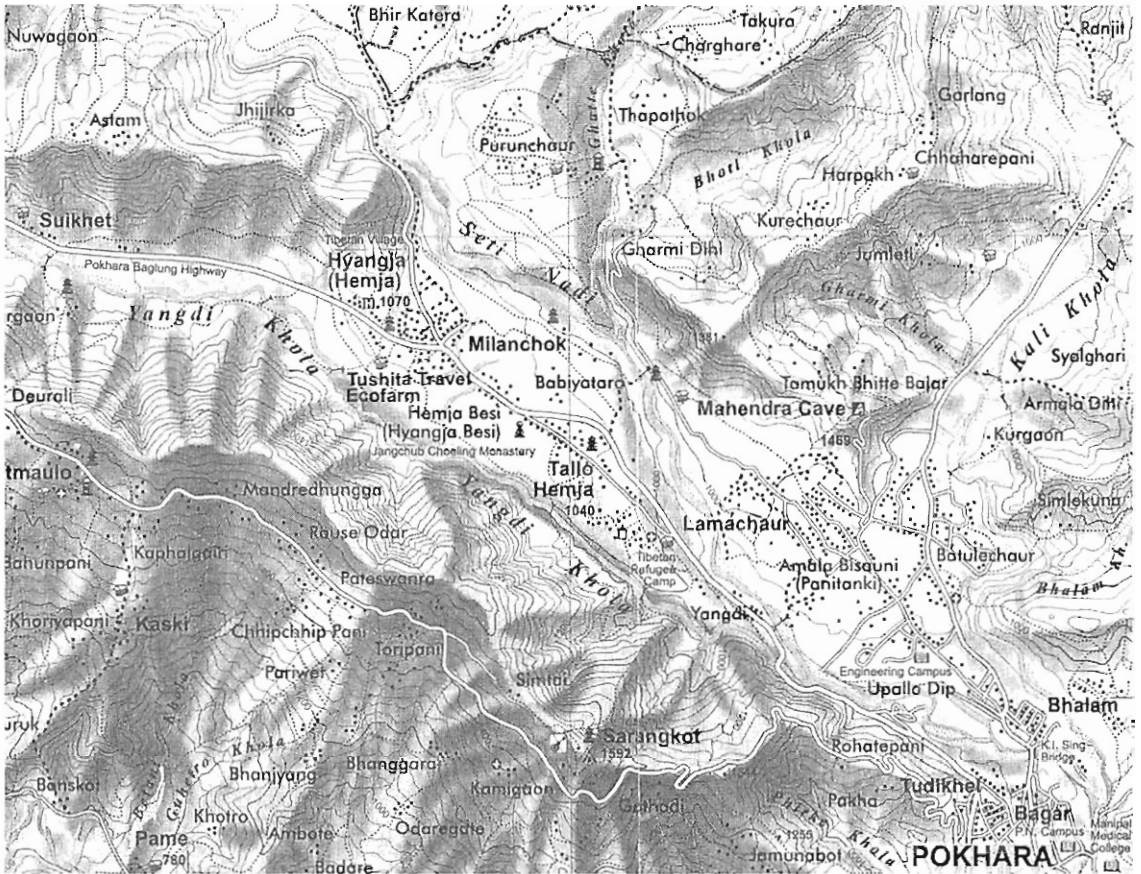


図1 ANNAPURNA BASE CAMP MAP 図 1:50,000 縮小



写真 1 シティツアー (バダン)



写真 2 サファリツアー



写真 3 温泉ツアー

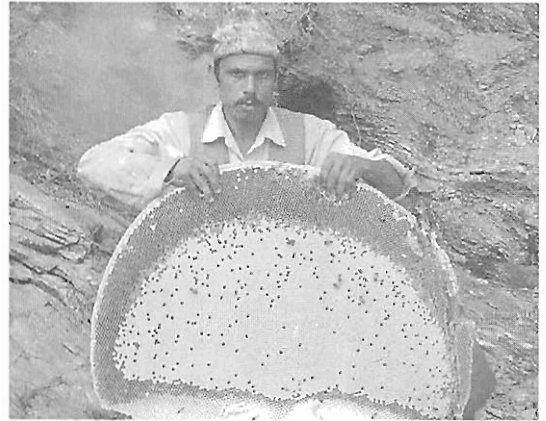


写真 4 ハニーハンター



写真 5 エコファーム概略図



写真 6 エコファーム



写真 7 ネパール人スタッフとウサギ



写真 8 豚

2. 調査地域の概要および活動

ツシタトラベルは、ポカラ市街のダムサイト地区とレイクサイド地区の中間に位置し、エコファームは、ポカラ（ツシタトラベル）から北西11kmのヘムジャ（Hemjy）にある（図1）。農園はヤンディコラ（Yandi Khola）川とセティナディ（Seti Nadi）川に挟まれた河岸段丘上にある。耕地面積は290haと個人農場としてはかなり広いほうである。ツシタトラベルで行われているエコツアーのメニューは、シティーツアー・サファリツアー・トレッキング・ラフティング・温泉ツアー（写真1～3）などで他のトラベル会社と大差はないが、食にこだわりがあるためか、ハニーハンター（Honey Hunter）ツアー（写真4）も企画されている。ハニーハンターは、絶壁の岩にへばり付いて梯子にぶら下がり採取するもので危険の伴う仕事である。ツシタトラベルのエコファームは、天然資源の持続的可能な開発と生物の多様性の保護を目的として2006年12月3日に設立され、メンバーは日本人を中心とする外国人とネパール人11人で構成されている。利益は農業従事者やこれから農業を目指す学生など農業育成者のために還元されることになっているが、設立間もない現状では赤字経営が続いている、にもかかわらずオーナーやスタッフらは共通目的を持ち生きがいを感じ十分満足してやってるようだ。エコファームでは、ヤギ・ウサギ・鶏・豚・牛・水牛などの家畜を飼育しており（写真6～9）、作物では、ハーブ・コーヒー・バナナ・ナス・キノコ（マイタケ・シイタケ）・ビヤクダンなどを有機農法で栽培している（写真10～15）。これらの農畜産物を、ツアー客にツシタトラベルのレストランで提供し



写真9 家畜小屋

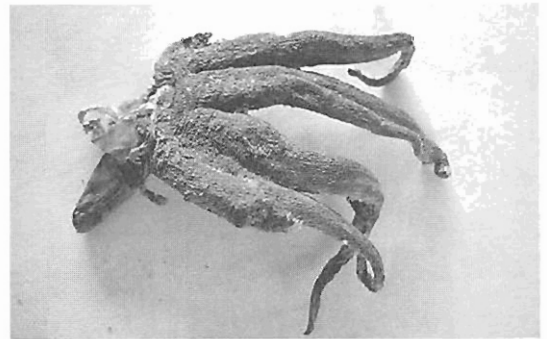


写真10 ヒマラヤンハーブ



写真11 コーヒー

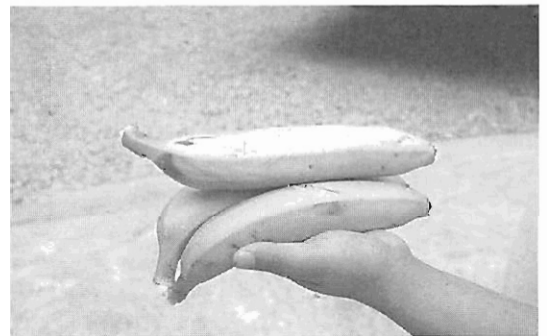


写真12 バナナ



写真 13 有機肥料



写真 14 養蜂



写真 15 野菜の温室栽培



写真 16 ネパール料理



写真 17 日本料理



写真 18 作業小屋 (ロッジ)



写真 19 トラがうろついているところ



写真 20 ベンガルトラ

ネパールにおけるエコツーリズムについて ポカラ・ツシタトラベルを例に



写真 21 エコヴェレッジ予定地



写真 22 付近の温泉（未開発）

ており、まさに地産地消である。レストランには、ツシタトラベルの宿泊客ばかりではなく、他のホテル宿泊客も食の安全とこだわりある食材で人気を集めている（写真 16・17）特にマイタケは絶品であった。自家農園だけの活動にとどまらず、地域住民への環境教育ということで村々を訪問し植林事業やキノコ栽培など女性自立のプロジェクトも立ちあげ活動している。ネパール訪問者の外国人観光客には健康増進のためのオーガニック製品をも提供している。長期滞在者には、農業体験を楽しむことができるグリーンツーリズムも企画されている。ここでのグリーンツアーは、ツシタトラベルのホテル（ペンション）から農業体験（農作業）に出掛けるのではなく、農園内にある作業小屋（ツアー客用にアレンジされたロッジ）（写真 18）に寝泊まりして野良仕事にでかけるといふ、きわめてユニークなツアーである。しかも、この付近にはトラが出没し（写真 19・20）、以前豚が襲われたとのこと。命懸けのグリーンツアーである。作業小屋（ロッジ）の隣に住み込みで常住しているネパール人農夫がいるため、人間には被害が及ばないようで、安心してツアーを楽しむことができる。ヤンディコラ川の対岸を縄張りに行っているようで、運が良ければタイガーハン

ティングも可能で、シャッターに収めることができるかもしれない。

3. 今後の企画

エコファームを立ちあげ4年目になるが、さらに北に10kmの地点カハル（Chaur）（図格外）にエコヴェレッジを企画立案中である（写真 21・22）エコヴェレッジではエコファームにイベント施設を加えたもので、自然エネルギー（小型水力発電所を利用）を用いた自立型の観光施設である。ここで、パーマカルチャー（Permaculture）^{11）}を実践しながら、ポカラのエコファームやエコヴェレッジが地域住民（学生・農民を含む）への農業啓蒙の場となることを目指している。また、日本からの団塊の世代をターゲットにロングステイ（長期滞在）希望者も募っている。ネパールは、発展途上の国であるが、首都カトマンズでは大気汚染、ゴミの不法投棄など環境問題が起きている。まだ環境破壊の手が伸びてないポカラで、自立型の社会すなわち循環型社会の構築はおおいに意義ある企画ではなかろうか。

謝辞

調査選定に当たり、事前調査をして頂いた本研究所の中村圭三教授ならびに大岡健三研究員、貴重な資料を提供して下さいましたツシトラベルのラジェス氏、現地情報に精通しいろいろ助言下さった駒井寿代女史に深く感謝申し上げます。

注1：パーマカルチャーとは、オーストラリアのビル・モリソン (Bill Molison) 氏によって

提唱されてきた、人間にとっての恒久的持続可能な環境を作り出すためのデザイン体系のことである。パーマカルチャーという語は、パーマネント (Permanent 永久の) とアグリカルチャー (Agriculture 農業) との合成語であると同時にパーマネントとカルチャー (文化) の合成語でもある。持続可能な農業と合理的 (環境負荷を与えない) な土地利用こそが人間と自然が共存でき得るという認識がある。

ABSTRACT

Ecotourism in Nepal – Example of Pokhara and Tushita Travel –

Takashi YACHI

Tushita Travel, which made it its motto to bring a green world to the coming generation, was established in 2001. As well as ecotoures, such as trekking on the Himalayas, Tushita Travel watches activities on Ecofarm, Containing foods. Ecofarm, on purpose of sustainable development of natural resources and reservation of biological diversity, was established on December 3, 2006. Crops harvested there are provided to tourists in a restaurant of Tushita Travel, Which exactly means 'Local production for local consumption'.

Greenturism plan that long-stay traverse can enjoy an agriculturalexperience is prepared there. In addition, 'Ecovillage' is being planned.

It is a self-supported sightseeing spot that uses natural energy. It is a self-supported sightseeing spot that uses natural energy. It contains event facilities with the Ecofarm, and small hydroelectric power plants constructed in near rivars. Tushita Travel practices 'Permaculture', and at Ecofarm and Ecovillage in Pokhara being the place for agricultural enlightenment of the inhabitonts, including students and farmers.